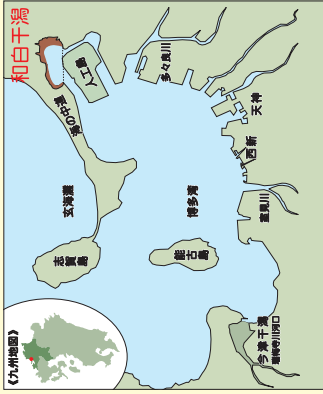


貴重な自然を残す和臼干潟

博多湾の東奥部にある和臼海域（人工島より北側 約300ha）と和臼干潟（茶色部分 約80ha）には、福岡市民にとっても、また世界的にも貴重な自然が残されています。



水鳥

秋から春にかけて、渡りの途中に立ち寄ったり、ここで越冬するたくさんさんの渡り鳥が見られます。クロツラヘラサギなど世界的に貴重な鳥や、日本では珍しいミヤコドリも定期的にやってきます。和臼干潟は東アジアの渡りのルート上にある貴重な干潟なのです。



クロツラヘラサギ



ミヤコドリ



ハクセンシオオナメギ



ハマニシク

底生動物や植物

多くの渡り鳥がここを訪れるのは、餌となる貝・カニ・ゴカイなどの底生動物が豊富に生息しているからです。繁殖期の夏には、干潟一面でカニや貝が活発に活動します。

また、干潟周辺には、海水と淡水の混じり合う環境を好む塩生植物が見られます。和臼海岸が日本の分布の南限となっているハマニシクなど貴重な植物が自生しています。

和臼干潟の役割

1. 多様な生き物の生活の場
干潟は生き物の宝庫です。多様な生き物がこの環境に適応して生きています。
2. 食べ物になる生物の産卵・生育の場
貝・魚などたくさんさんの海の幸が産卵・生育する場として重要な役割を果たしています。
3. 自然の浄化槽
人間が川や海に流した生活排水は、干潟の微生物によって分解され、底生動物や鳥などの食物連鎖により浄化されています。
4. レクリエーション・環境教育の場
貴重な自然海岸を残す和臼干潟は、人々に心休まる憩いの場を提供しています。潮干狩りやバードウォッチングを楽しむこともでき、自然体験のための環境教育の場ともなっています。



自然観察会

干潟をめぐる環境悪化

博多湾の開発による干潟の消滅や都市化による生活排水の流入の増加によって、博多湾や和臼干潟の環境は次第に悪化しています。

1994年から和臼干潟沖の貴重な浅海域を埋め立て、面積401haの人工島が出現しました。それにより、浅海域に生息していた生物が生きていく場を失ったのはもちろん、人工島の出現により和臼海域には水質の悪化が原因と思われるアオサ（海藻）の大量発生や干潟のヘドロ化、渡り鳥の減少などが目につくようになりました。また干潟周辺の緑地も相次ぐ開発により減少しています。

みんなの力を合わせて自然を守りたい！ 一会の活動

和臼干潟を守る会ではこの自然を守り、未来の子どもたちに残すために、次のような活動をしています。

自然観察会

保育園・小中学校・高校・大学・一般（企業、団体など）などから依頼を受けて、和臼干潟での自然観察会のお世話をしています。自然観察ガイド育成の講習会も開いています。



クリーン作戦

クリーン作戦

干潟には人が海や川に捨てたゴミや、海で大量発生したアオサが流れ着きます。毎月1回、干潟の清掃をしています。

生物や水質・砂質調査・ゴミ調査

野鳥に関する内外の一斉調査に協力したり、クリーン作戦のときに水質や砂質調査をしています。年1回、国際海洋クリーンアップに参加してゴミ内容調査もしています。

干潟まつり

年一回、海の広場で、渡り鳥が来る季節に自然観察を主体としたおまつりを開催しています。模擬店やステージもあります。

干潟の保全をめざして

博多湾・和臼干潟が水鳥の環境を守るラムサール条約の登録湿地となるよう、環境省や福岡市に働きかけをしたり、そのためのイベントも企画・開催しています。

和臼干潟通信やパンフレットの発行

和臼干潟の状況や会の活動について広く知ってもらうために、年4回機関紙「和臼干潟通信」を発行しています。環境教育のためのパンフレットやリーフレットなども発行しています。



定例会議等の開催

会の運営のために、定例会議や総会を開催しています。会員は自由に参加でき、親睦を深めたり、講師を招いてミニ学習会を開いたりもしています。